

# 目次

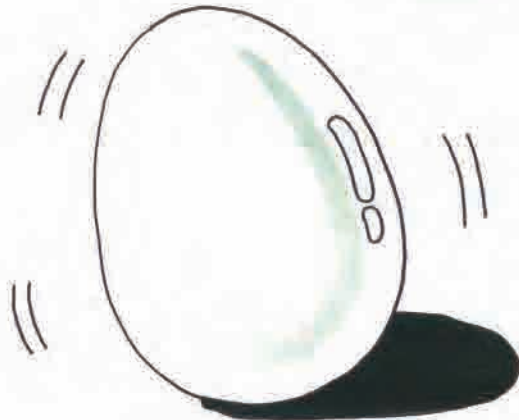
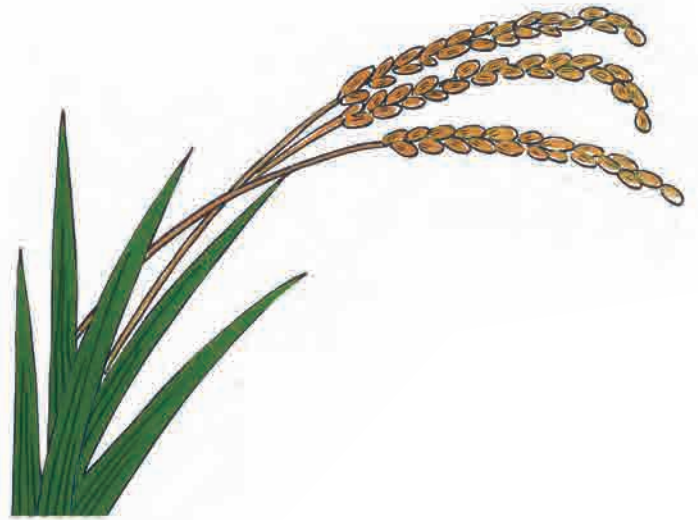
- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (草木編)
- 3 童謡 うさぎ
- 4 早口ことば 生麦 生米 生卵
- 5 今月の詩 山の月夜 北原白秋
- 6 たし算 6の段
- 7 ことわざ 触らぬ神にたたりなし 三人寄れば文殊の知恵  
先んずれば人を制す 猿も木から落ちる  
山椒は小粒でもぴりりと辛い
- 8 かけ算 7の段
- 9 俳句 川端茅舎 小林一茶 松尾芭蕉
- 10 かぞえうた 2艘 4艘 6艘 (ヨット)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた どんな音
- 13 今月のうた お茶の歴史
- 14 四字熟語 自由奔放 千載一遇 猪突猛進
- 15 イメージトレーニング クロス君 (第6話 お父さんお母さんの小さかった頃)  
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし こぶとりじいさん
- 17 漢詩 秋風の引
- 18 百人一首 後鳥羽院 法性寺入道前関白太政大臣 左京大夫顕輔  
阿部仲麻呂
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

# 早口ことば

なまむぎ  
生麦

なまごめ  
生米

なまたまご  
生卵



やま つき よ  
山の月夜

きたはらはくしゅう  
北原白秋

しら かば みき  
白樺の幹はしろくて、  
つき よ かせ  
月の夜の風にひかるよ。  
て て まど  
お手手うて、窓のこどもよ、  
しら かば みき  
白樺の幹はしろいよ。

ほう は  
朴の葉のかげはひろくて、  
つき よ つち  
月の夜の土にゆれるよ。  
て て  
お手手うて、そとのこどもよ、  
ほう は  
朴の葉のかげはひろいよ。



# ことわざ

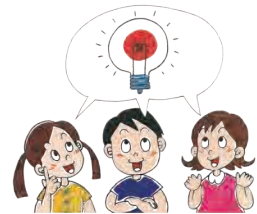
さわ かみ  
触らぬ神にたたりなし

なまじその物事ものごとに関係かんけいしなければ、災わざわいを招まねくことは  
ない。



さんにん よ もんじゅ ち え  
三人寄れば文殊の知恵

平凡へいぼんな人間にんげんでも、三人集さんまって考かんがえれば、文殊もんじゅ菩薩ぼさつの  
ような良よい知恵ちえが出る。



さき ひと せい  
先さきずれば人ひとを制せいす

何事なにごとも人ひとよりも先さきに行おこなえば、優位ゆういに立たつことができる。



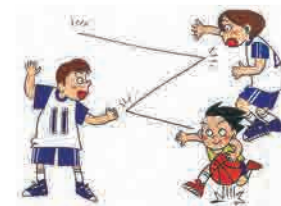
さる き お  
猿さるも木きから落おちる

その道みちに優すぐれた人ひとでも、時ときには失しっ敗ぱいすることもある。



さんしょう こつぶ から  
山椒さんしょうは小粒こつぶでもぴりりと辛からい

体からだは小ちいさくても、優すぐれた才さい能のうや強つよい気き性しょうを持もっていて、  
侮あなどれないこと。



# 俳句

つゆ<sup>たま</sup>の玉 ありたじたじと なりにけり

かわばた ぼうしゃ  
川端茅舎



ひるめし<sup>を</sup> ぶらさげている かがしかな

こばやしいっさ  
小林一茶



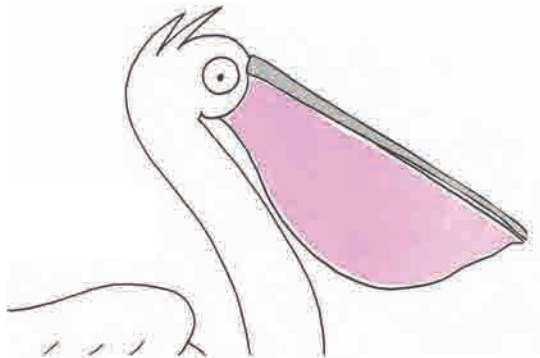
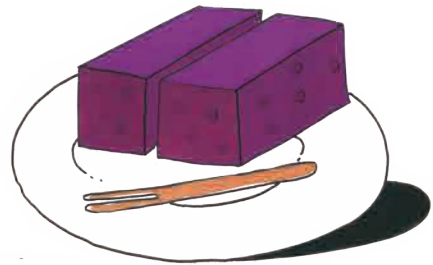
つき<sup>こずえ</sup>はやし 梢は雨を もちながら

まつお ばしょう  
松尾芭蕉



# なぜなぜ

- 1 かんはかんでも家の出入口にあるかんはなあに？
- 2 甘くて長四角、切って食べるかんはなあに？
- 3 ふくろのようなくちばしを持ったかんはなあに？
- 4 投げ捨てるどめいわくになるかんはなあに？



## 《どんな<sup>おと</sup>な音》

① 1 ぽんと



ひとさしゆびを  
だす

② 1 ぽんで



はんたいのゆびも  
だす

③ どんなおと こんなおと



りょうてをふる

④ (トントントン)



ひとさしゆびで  
3 かいたたく

⑤ 「おに！」



りょうてのひとさし  
ゆびをあたみに

⑥ 2 ぽんと 2 ぽんでどんなおと  
こんなおと (トントントン)  
「かに！」



①～④を2 ほんのゆびで。  
さいごはかおのよこでチョコキ

⑦ 3 ぽんと 3 ぽんでどんなおと  
こんなおと (トントントン)  
「おひげ！」



①～④を3 ほんのゆびで。  
さいごはひげをつくる

⑧ 4 ぽんと 4 ぽんでどんなおと  
こんなおと (トントントン)  
「ほうき！」



①～④を4 ほんのゆびで。  
さいごはゆらゆら

⑨ 5 ぽんと 5 ぽんでどんなおと  
こんなおと (トントントン)  
「こちょこちょこちょ・・・」

①～④を5 ほんのゆびで。  
さいごはこちょこちょ・・・



《お茶の歴史》

かまくらじ だい りんざいしゅう えいさい  
鎌倉時代 臨済宗の栄西が

お茶を伝えて お茶の歴史は はじまった

むろまち じ だい むらたじゅうこう ぜん ところ くわ  
室町時代 村田珠光は 禅の心を加え

ちやしつ ところ しず もと わ ちゃ  
茶室にて 心の静けさを求める 侘び茶をつくる

わ ちゃ まな たけ の じょうおう せんのりきゅう つた  
侘び茶を学んだ 武野紹鷗 千利休に 伝えたね

せんのりきゅう わ ちゃ かんせい  
千利休は 侘び茶を完成

ちゃ ゆ げいじゅつ たか  
茶の湯を 芸術にまで高めたよ



千利休



じゆうほんぽう  
自由奔放

まわりのことを気にかけず、自分の思うままにふるまうこと。



せんざいいちぐう  
千載一遇

せんねん いっかい  
千年に一回しかないような、めったにない絶好の  
きかい  
機会。

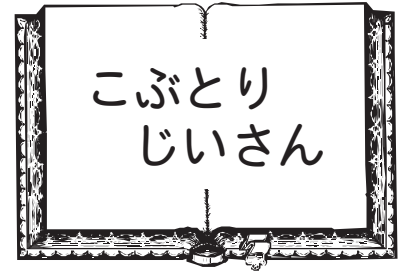


ちよとつもうしん  
猪突猛进

あとさき かんが  
後先のことを考えずに、むこうみずに勢いよく突  
すす  
き進むこと。



# おはなし



「こぶとりじいさん」は、ほったに<sup>おお</sup>大きなこぶのあるおじいさんのお話<sup>はなし</sup>です。お話を<sup>はなし</sup>聞いた<sup>き</sup>後<sup>あと</sup>で、質問<sup>しつもん</sup>にこたえてみましょう。

- 1 こぶをつけたおじいさんは、何人<sup>なんにん</sup>いましたか。
- 2 森<sup>もり</sup>の中<sup>なか</sup>で踊<sup>おど</sup>っていたのは、誰<sup>だれ</sup>でしたか。
- 3 鬼<sup>おに</sup>は、どうしておじいさんのこぶを、とったのですか。
- 4 気の短<sup>き</sup>いおじいさんは、のんきなおじいさんの話<sup>はなし</sup>を聞いてどうしましたか。
- 5 気の短<sup>き</sup>いおじいさんは、どうしてこぶをつけられてしまったのですか。



秋風の引しゅうふうのひん

劉禹錫りゅううしやく

何れの処いずるところよりか 秋風しゅうふう至いたる  
 蕭蕭しょうしょうとして 雁群がんぐんを送おくる  
 朝ちよう来らい庭樹ていじゆにいり  
 孤客こかく 最もつとも先さきにきく



百人一首

人もをし  
人も恨めし  
世を思ふゆゑに  
あぢきなく  
物思ふ身は

(後鳥羽院)

わたの原  
漕ぎ出でて見れば  
雲居にまがふ  
久方の  
沖つ白波

(法性寺入道前関白太政大臣)

秋風に  
たなびく雲の  
もれ出づる月の  
絶え間より  
影のさやけさ

(左京大夫顕輔)

天の原  
ふりさけ見れば  
三笠の山に  
春日なる  
出でし月かも

(阿部仲麻呂)



法性寺入道前関白太政大臣